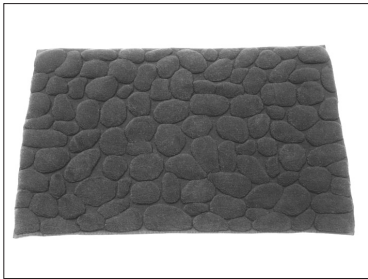


四国タオルフェアに新しい風が見える — 2006 デザイナーとのコラボレーション —



四国のタオル産地は中国からの輸入品に押され一時窮地に追い込まれ、セーフガードを発したり話題を呼んできたが、いち早く自立化を目指した企業が個別にものづくりを進め、展示会、商談会に参加するなど活性化を計った。なかでも池内タオルや七福タオルなど海外市場にも進出し高い評価を得て話題を呼んだ。すでに会員の古屋興一氏、今野文雄氏も地元企業と組んで意欲的なものづくりを行い成果を挙げている。産地業態の組合としても学生との産学協同コラボレーションによる産地活性化を積極的に行い継続的な発表を青山ベルコモンズで開催してきた。

今年（2006年）はキャリアのあるデザイナー5人とのコラボレーションを試み、去る2月2～3日、同じく青山ベルコモンズで発表を行った。起用された5人のデザイナーは菱沼良樹、横瀬多美保、高橋正、山本清、鈴木マサルの諸氏であった。嬉しいことに、高橋、山本、鈴木氏等共にTDAの会員であり、今後の活躍にも一層期待を寄せたいと思う。

出品物はタオル製品とタオル地を使ったファッションアクセサリや、インテリアアクセサリアイテムに、タオル織機を駆使し応用した脱タオル地や服地など高度な技術的工夫が見られ、さすが日本一のタオル産地と感心した。

5人のデザイナーはそれぞれの持ち味で新しい布づくりの工夫を見せてくれたが、特に新鮮な発想と製品化で私の目を引いたものに鈴木マサル氏のフェイスタオルとバスタオル（吉井タオル（株））があった。アイデアソースはありふれたエアークッションのツブツブ感触と自然の敷石の立体的触感を思い切りタオルの中に取り組み確かな技術で織り上げたものであるが、従来のタオルの常識を超えた商品として、新しい消費者ニーズに答えられるのではないかと思った。（杉山 哲三）